

2 3 4 5 6 7 8 9 10 11 12 13 14 15 16 17 18 19 20 21 22 23 24 25 26 27 28 29 30 31 32 33 34 35 36 37 38 39 40 41 42 43 44

郵便
報知新聞
第四百廿五号

本年三月廿日の夜迄本館の...
金設け為さぬ馬鹿と云程の地獄女乃
流行の毎區の街の有りざる無かれ其
技何程のしやれども二時御前能
廻り不意の踏込捕はる三百人計の聞
一、此中多一度二度と押されども
有る猶前年御觸の出向際高直
の先や買込連中と同様の事なれば
蓮託生散て不便とするに足らぬ
此此度ふらと正業ふ立戻らば即ち
其日より良民とあり又勝手と此
賤業が為一度ハ吉原根津や四宿
の管轄を受つる良と呼られ賤と
稱らる其二道の追分ハ此夜一條の
繩の下決するまじ

